

柴田守さん(院法修2)が佳作受賞 刑事政策に関する懸賞論文

「犯罪予防活動とプライバシー」をテーマに(財)日本刑事政策研究会・読売新聞社が、全国の大学・大学院生を対象に実施した「平成14年度刑事政策に関する懸賞論文」で、柴田守さん(院法修2)の「生活安全警察とコミュニティセキュリティカメラシステム」が佳作を受賞(今年度は3人。優秀賞は該当なし)。12月11日、東京・霞ヶ関の法曹会館で表彰式が行われた。

生活安全警察とコミュニティセキュリティカメラシステム

柴田さんは現在「公法学専攻Aコース」に在籍、岩井宜子教授の指導で「修復的司法」(被害者と加害者の和解)を研究、将来は研究者を目指している。

論文では、いま警視庁が、犯罪被害の未然防止を主たる目的として、公共空間に防犯ビデオカメラを設置、専用受信センターで受信・録画するシステムの導入を検討しているが、防犯カメラは個人のプライバシー権・肖像権を侵害する恐れがある。だが地域住民のニーズを充足する上で許容され、警察と地域住民との連携の必要性を論じた。

柴田さんは「犯罪の増加、複雑化の中で、これらをいかに未然に防ぐかが大きな課題です。しかし予防策は権力濫用の危険性もあり、プライバシー等の関係で、どこまで許容されるかが問われ、この点を中心に論文をまとめました」と言い、「初めての応募で入選するとは思っていませんでした。光栄です。大きな励みになりました」と喜びを語った。

[1月15日/ニュース専修9面]

県人会 北から南から 長崎県人会 60人が仲良く、楽しく 鳳祭でベストデザイン賞



鳳祭で「ベストデザイン賞」を獲得した模擬店。
みんなの笑顔で売り上げも好調

11月の鳳祭で、長崎県人会が出店した“長崎ちゃんぼん”の模擬店がちろりん村「ベストデザイン賞」に輝いた。

勇壮な龍のオブジェを飾ったデザインは人目を引き、そのお陰か、売れ行きも好調で、最終日の昼ごろにはめでたく完売した。龍の製作を担当した山口大輔くん(経済2・三重県神戸高)は“長崎くんち”をヒントに秋山くん(裕太郎、経営2・山梨県甲府東高)とで作りました。首が重たくなり、バランスを取るのが大変でした」と苦勞を話す。

“仲良く、楽しく”をモットーに、現在、会員約60人で活動。同県出身者は1割ほどで、関東圏出身者が半数を占める。会の雰囲気について生井真会長(経済2・茨城県下館第一高)は「個性的な人がいて、毎日が楽しいです」と話し、印南拓海くん(経営2・茨城県水戸桜ノ牧高)は「良い先輩、仲間たちに出会える場所です」と言う。

メイン活動は夏合宿で、長崎とその他の地域を毎年交互に訪問。一昨年は伊豆大島、昨年は長崎を訪れ、30人が参加し、原爆資料館や被爆地跡などを見学した。「見学を通じて、いろいろなことを考えさせられ、良い経験になりました」と生井会長。

今月末には冬合宿を予定。約30人で野沢温泉に行き、スキーなどを楽しみ、親睦を深める。他にもボウリング大会などのさまざまなイベントがあり、村樫智恵さん(経済1・栃木県佐野女子高)は「大勢が参加する企画だけでなく、少人数で行うのも楽しいです」と話す。

生井会長は「人数の多い会ですが、みんなでまとまって楽しく活動したい」と今後の抱負を語った。

[1月15日/ニュース専修9面]

2教授が英語で講演 国際交流特別講演会



笑顔で講演するスティーブン・リム教授

第109回国際交流特別講演会が12月5日、生田キャンパスで開催され、ワイカト大学（ニュージーランド）のスティーブン・リム経済学科教授が「タイにおけるエイズ問題と貧困対策」について英語で講演した。

同教授は、成人の2%がHIV感染者というタイの現状を踏まえ、女性の売春問題、都市と地方における貧困問題や労働条件の格差を浮き彫りにし、教育の重要性、雇用の創出の必要性などを訴えた。室井義雄経済学部教授をはじめ学生約60人が出席。加瀬貴さん（大学院経済学研究科修士課程1年）と穂山理子さん（国際経済学科4年・室井ゼミ）が通訳を務め、講師のリム教授が会場に質問を投げかけ、学生が考えるという双方向の講演が展開された。

また11月16日から12月4日まで4回シリーズで「やさしい英語による経営学講座」が生田キャンパスで開かれ、毎回、市民、学生ら60人前後が参加した。講師はダブリン大学トリニティカレッジ（アイルランド）のルイス・ブレナン経営学部教授。

〔1月15日/ニュース専修9面〕

[【ニュース専修ウェブ版トップに戻る】](#)